お金
歴史館

日本のお金にはどんな歴史があるの？

円の誕生

明治 4 年 (1871) に、今使われている「円」という単位の新しい貨幣が生まれました。円 (えん) ・銭 (せん) ・厘 (りん) という 10 進法単位 (じゅっしんぽうたんい) で、金貨が貨幣の基本となり、銀貨や銅貨は金貨を補うものでした。はじめ銀貨は貿易用につくられていました。だんだん使う量が多くなって、国内でも金貨と同じくらい使われるようになりました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

明治 4 年、「円」が使われた最初の貨幣

明治初期の銀行券（1）

産業が活発になると、全国に銀行をつくる必要性が高まってきて、全国に 153 の「国立銀行」がつくられました。これは、アメリカのナショナルバンクという銀行の仕組みを参考にし、お札のデザインなどもマネしてつくりました。国立銀行と言う名前ですが、民間銀行でした。その国立銀行で使われるためにつくられたのが「国立銀行紙幣」(こくりつぎんこうしへい) で、それぞれの銀行が後で名前を入れて使われました。明治 15 年 (1882) に「日本銀行」(銀行の銀行) が開業すると、全国 153 の国立銀行は普通銀行にかわり、国立銀行紙幣も明治 32 年末 (1899) に使われなくなりました。

全国各地につくられた 153 の国立銀行が発行した銀行券です。
アメリカ紙幣をマネして作られたため、とてもよくにています。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

明治初期の銀行券（2）

銀行の銀行として日本銀行は明治 15 年 (1882) に日本の中央銀行としてつくられました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

日本銀行落成の図

明治15年（1882）、日本の中央銀行として開業した日本銀行。下の図は明治29年（1896）現在日本銀行がある場所に移転した時のもの。

立派な建物が建てられた